

荒川技研工業、世界最大級のデザインの祭典 ミラノデザインウィークに 3年連続出展 2箇所で開催

アラカワグリップの機構を用いたインスタレーション「ubique」、家業の事業継承テーマのデザインプロジェクト「NEW NORMAL」

荒川技研工業株式会社（本社：東京都渋谷区 / 代表取締役：荒川創）は、2025年4月7日（月）～13日（日）の期間、イタリア・ミラノで開催された世界最大のデザインイベント「ミラノデザインウィーク2025」に3年連続で出展しました。

ご来場いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

本年は空間デザイナー吉添裕人氏とのコラボレーションに展示「ubique」を、世界中から注目を集める ALCOVA MILANO の4会場のひとつ Villa Bagatti Valsecchiにて発表しました。

また、“日本の家業”をテーマとしたデザインプロジェクト「NEW NORMAL 5 -Japanese Maison-」のサポーターとして、会場構成におけるアラカワグリップおよびワイヤーの製品・技術提供を行いました。

1. 空間デザイナー 吉添裕人氏によるインスタレーション「ubique（ウビークエ）」

「ubique」は、空間における光と影、そしてその間を行き交う無形の気配を捉えるために、素材と構造の選定を根本から見直すことで生まれたインスタレーションです。

当社の50周年プロジェクト「50 GRIPS」の企画として2023年に発表されたインスタレーションを起点に、このたび新たに制作されました。

当社が開発・製造を行うワイヤーハンギングシステム「ARAKAWA GRIP」は、優れた安全性を保ちながら、ワイヤー上の任意の位置に自由にパーツを取り付けることができるため、空間の構成や用途に応じて柔軟に形を変えることが可能です。

吉添氏はその「可変性」に焦点を当て、光源そのものの位置を移動できる構成とすることで、光と素材、距離や数の関係性を自在に変化させる装置をデザインしました。

照明の「吊り構造」が独創的な造形を生み出す要素となっていることも、本作の大きな特徴となっています。

今回会場となったのは、19世紀に貴族の別荘として建てられた Villa Bagatti Valsecchi の地下スペースです。

無形の可能性がubiqueによって美しく繊細に映し出された空間に、時間を忘れて佇む人が多く見られ、「照明が持つ機能的な側面」「インスタレーションとしての表現力」双方において、高い賞賛を得ることができました。





ubique (ウビークエ) Hiroto Yoshizoe in collaboration with ARAKAWA & Co., Ltd.

展覧会概要

会期：2025年4月7日（月） - 13日（金）

会場：ALCOVA MILANO, Villa Bagatti Valsecchi Space S7（ヴィラ・バガッティ・ヴァルセッキ）

デザイン：吉添 裕人

写真/動画：渡辺 俊介

製作協力：松井機業株式会社、株式会社ワイ・エス・エム、有限会社落合製作所、シーフォース株式会社

プレスキット：ダウンロードリンク

Designer



吉添裕人 Hiroto Yoshizoe

空間デザイナー Spatial Designer / Artist

1986年生まれ。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。独立後、都市開発や商業施設開発等の空間デザインを主軸としたクライアントワークに従事。自然風景に内在するプリミティブな要素からインスピレーションを受けると同時に、日本の文化背景や宗教観と通ずる「変化」「動き」「時間」といった不完全で流動性のある事象を扱う。なかでも常に変容し続ける「光」と「影」という要素を軸に探究。地球上に存在するすべての事物（素材）は光と影を瞬間的にかたちに残め認知するための媒体であると捉え、その間に生じる反射や屈折、透過といった現象と知覚の関係性を用いて制作活動を行なう。特に記憶や感情と対話できる知覚空間を作り出す手法によって、体験者の存在を再認識することを目指している。

HUBLLOT DESIGN PRIZE 2022 Finalist、ELLE DECO International Design Awards-EDIDA 2022 Best in Lighting

Nominated by Japan Edition、LEXUS DESIGN AWARD 2017 グランプリなど受賞多数。京都芸術大学非常勤講師。

2. 家業の新常識をつくるデザインプロジェクト「NEW NORMAL 5 -Japanese Maison-」

NEW NORMAL は、新常識となるデザインを生み出すことを目的に国内外で展開するデザインプロジェクトです。

2020年に当社がきっかけとなって発足した本プロジェクトは、今年で5回目の開催となります。

昨年に引き続き、本年は「家業の新常識をつくる」をテーマに、中小企業の事業後継者とデザイナーの協働による8つの事業変革の種が発表されました。

これまで全ての展示においてワイヤーシステムを使った空間づくりをサポートしてきましたが、今回も浦田孝典氏と伊澤真紀氏による空間構成により、キャプションの掲示や展示台の設置に当社のワイヤーシステムを提供しました。



NEW NORMAL 5 -Japanese Maison- 〈ミラノ展〉

展覧会概要

会期：2025年4月7日（月） - 13日（金）

会場：Isola Zetalab, Via Cola Montano 2

会場構成：浦田 孝典、伊澤 真紀

デジタルアート：木之内 憲子

協力：荒川技研工業株式会社、アイティーエル株式会社、株式会社摂津金属工業所、アルポリック™（三菱ケミカルインフラテック株式会社）

写真：浦田 孝典、安田 存人

動画：伊澤 真紀

参加企業：株式会社アルナ、株式会社樫本商店、三栄ケース株式会社、株式会社摂津金属工業所、有限会社シリウス、株式会社高畑、東商ゴム工業株式会社、ミツシマ工業株式会社

参加デザイナー：中込 明、江口 海里、嶋野 陽介、SOL style、鹿野 峻、北條 英、安田 存人+土井 智喜

特設サイト：<https://newnormalnew.com/archive-2025/>

プレスキット：ダウンロードリンク

荒川技研工業 Arakawa & Co.,Ltd



1973年に創業。創業者であり、工学博士である荒川秀夫氏が「ないものを創る」を理念に会社を立ち上げ、1975年に世界に先駆けてワイヤー金具の調整機構「ARAKAWA GRIP」を開発。その後この技術を核とした用途製品を次々と開発し、製造、販売事業を展開、小さいながらも自社のブランド「ARAKAWA GRIP」を持つ。表参道に本社兼ショールーム「TIERS」を構え、西日本の営業拠点である大阪オフィス兼ショールーム、そして、製造（部品製造、設計、生産技術、資材、組立）及び出荷を行う東日本の営業拠点、所沢事業所、と、これら3拠点の緊密な連携をもとに、北海道から沖縄まで日本列島すべてをカバーしている。国外では「メイドインジャパン」のARAKAWA GRIPとして愛されており、日本のものづくりを世界に発信し続けている。

公式サイト：<https://www.arakawagrip.co.jp/>

Instagram：@arakawa_co_ltd（企業）@arakawa_grip（製品）